



1年生を歓迎！生徒会入会式



学年合唱を披露する1年生の皆さん



入会認証状を受け取る刈谷みのりさん

校地内の桜が満開を迎える中、1年生を生徒会の仲間として迎え入れる生徒会入会式が行われました。コロナ禍の影響で、2、3年生の群読はビデオ上映となりましたが、入学式では披露できなかった歓迎の合唱「春に」をしっかりと1年生に届けることができました。また、短期間で準備したであろう1年生の群読「雨ニモ負ケズ」は、中学校生活に対する一人一人の意志が込められた素晴らしい発表でした。1年生合唱「We'll Find The Way～はるかな道へ」（指揮：宇夫方帆望さん、伴奏：八重樫美紗さん）は、2、3年生も目を見張る出来映えで、秋の銀河祭に向けて期待の高まる発表でした。

校長からは、北中の伝統をよく理解し、引き継ぎ、発展させていく学年となることを期待するとともに、生徒会入会で得た「権利（自分の意見を表明できること）と義務（みんなで決めたことはみんなで守ること）」をしっかりと実行してほしいと伝えました。民主主義が脅かされる社会情勢もあり、これからの社会をつくっていく貴重な人材となる1年生にも、そのことの重要性を自覚してほしいとの願いからの話でした。

その後は、お待ちかねの部活動紹介が、各部2分という短い時間の中行われました。本来であれば仮入部前に行われるものでしたが、1年生はどの部の発表も興味津々の目で見つめていました。



生徒会活動を説明する生徒会執行部



歓迎の合唱を披露する2、3年生の皆さん

<裏面活用第2弾>

「分きたい一心」

「先生、私に数学を教えて」。担任をしていたクラスのK子にそう言われたのは、二年生に進級したばかりのころだった。聞けば、病気で欠席している間に学習できなかったところがあり、数学に自信がないということだった。普段、まじめな態度で学習に当たっていたK子だったので、「復習をしっかりとしていけば大丈夫だよ」と励ましの言葉をかけただけで、そう心配はしていなかった。



しかし、他教科がどんどん伸びていく中、どういうわけか、数学だけは思うように伸びなかった。期末の三者面談でも、心配した母親から「どうしたらよいか？」と相談された。本人の要望もあり、個別学習をしていくことになった。

しかし、いざ個別学習をしようとしても、放課後は部活動で忙しい、昼は十分に時間が取れないなどの理由で、なかなか実行に移せなかった。残された時間は、登校から朝読書までのわずかな時間だけ。朝は苦手そうなK子だったが、毎週火曜と金曜は、7時45分までに登校すると約束してくれた。

次の週から、K子と二人の「朝勉」が始まった。わずか30分足らずの学習で、1、2問解けばすぐにタイムオーバー。私の都合悪ければお流れになり、冬場は雪道を登校してくるだけで疲れきっていて勉強にならなかった。それでもK子は休まず朝勉に通い続けた。わずかな時間に集中して勉強を続けた。朝勉を始めて1年がたつころには、数学に対して自信を持ち始めていた。



朝勉のうわさを聞きつけて、「私もやりたい」と数人の生徒が志願してきた。受験を控えた2学期後半には、1週間びっしり朝勉の予約が入っていた。毎朝、始業前の貴重な時間を割かれるのは大変なことだったが、どの生徒も「分きたい」という一心で朝早くから登校して来ていることを思えば、何とかその期待に応えたかった。



朝勉の効果がどれほどあったかは定かではないが、幸い朝勉に来ていた生徒たちは皆、第一志望の高校に進んでいった。K子も満面の笑みを浮かべて合格の報告にやってきた。朝勉のお礼と称した手作りのケーキを携えて。